

平成 5 年度通常総会議案について

平成5年度通常総会は去る4月23日に開催され、以下の総会議案がすべて原案どおり承認されましたのでお知らせします。

(第1号議案)

平成4年度事業報告

I. 事業の概要

1. 研究発表会

(1) 5月13日、14日の両日、仙台市民会館において、第71回研究発表会を開催した。

・特別テーマ「来たるべき高度技術社会の展望」

・特別講演(一般公開)

1) 高度技術と社会 西澤潤一(東北大学学長)

2) 地球時代の経営と技術開発

岡久雄(三菱電機㈱常任顧問・前日本OR学会会長)

3) 高度技術社会におけるOR 竹内啓(東京大学教授)

・発表件数 120件

一般発表 105件(内部会報告3件)

ペーパーフェア 7件(内部会報告3件)

特別セッション 8件

・参加者数 302名

また15日には東北電力㈱電力・応用技術研究所、ニッカウスキーを見学した。

(2) 9月9日、10日の両日、工学院大学において、第72回研究発表会を開催した。

・特別テーマ「ORの再挑戦」

・特別講演(一般公開)

1) 画像処理技術の現状と将来展望 南敏

(工学院大学教授)

2) 地球環境問題とその研究 市川惇信

(国立環境研究所所長)

・招待講演

1) 極値問題に対する2次の最適性条件

川崎英文(九州大学)

2) 最適クラス編成法: その後の展開

今野浩(東京工業大学)

3) CAMP: 順序づけ分枝限定アルゴリズム設計支援システム-ORの計算環境としての位置づけ-

関口恭毅(北海道大学)

4) 行列演算用語 LAMA X-S (PC98版)

内田智史(神奈川大学), 本郷茂(専修大学),

八巻直一(システム計画研究所)

5) 待ち行列におけるある近似の試み

木村俊一(北海道大学)

・発表件数 126件

招待講演 5件

一般発表 95件

特別セッション 13件

チュートリアルセッション 6件

ペーパーフェア 7件(内部会報告3件)

・参加者数 408名

また、11日には東京ガス㈱地域冷暖房施設、東京都庁を見学した。

2. シンポジウム

(1) 5月12日仙台市民会館において、第27回シンポジウム「ビジネスロジスティクスシステムの構築に向けて」を開催した。参加者は82名であった。

(2) 9月8日工学院大学において、第28回シンポジウム「地球環境問題を探る」を開催した。参加者は53名であった。

3. 特設研究部会(数理計画法研究会)

(主査: 今野浩(東京工業大学) 幹事: 古林隆(法政大学), 茨木俊秀(京都大学), 森戸晋(早稲田大学), 鈴木久敏(筑波大学), 山本芳嗣(筑波大学), 水野真治(統計数理研究所) メンバー26名) 月例研究会(8回・東京), RAMPシンポジウム, RAMPセミナー等の開催を通じて数理計画法の理論, 応用, ソフト開発等に関する研究普及活動を行なった。

◎印終了を示す *印研究グループを示す ☆印常設部会を示す

部 会 名	主 幹 査 事	メンバ ー	開 催	内 容
☆待ち行列	紀 一 誠 山 下 英 明 (日本電気) (上智大学)	20名	10回	待ち行列システム理論とその応用に関する研究発表を1回に2件ずつ行なってきた。内容は、方法論の構築、理論解析、シミュレーション等多岐にわたった。海外からも6名のスピーカーをお招きした。
☆OR/MSとシステム・マネジメント	松 田 武 彦 高 津 信 三 (産能大学) (専修大学)	26名	10回	ORを広く経営問題解決技法としてとらえ、経営戦略、組織科学においてORがどのような役割を果たしているかについて研究・討論した。また、組織知能、情報システム、ソフト・システムズ・アプローチなどとORとのかかわりを検討した。
◎OR広報	森 村 英 典 館 正 道 (筑波大学) (日本総合研究所)	9名	9回	問題解決のガイドとしてORストーリーが示されれば、実学としてのORに対する理論と普及に貢献できるのではないかとこの観点から、そのフレームワークの研究ならびにストーリーの具体化を試みた。
◎最適化とその応用	加 藤 直 樹 木 庭 淳 (神戸商科大学) (神戸商科大学)	10名	5回	初めの2年間の研究成果は学会誌Vol. 37No. 2に特集号として発表。今年度は若手研究者の研究成果を中心に8件の研究報告が行なわれたが、いずれも応用指向の強い研究内容であり、このような研究会の役割の重要性が認識された。
◎確率モデルにおける最適化	木 島 正 明 田 村 明 久 (筑波大学) (東京工業大学)	12名	7回	数理計画法や確率解析の共有している問題・境界領域またはそこから派生する新しい問題について各分野固有のアイデアや理論の交流・理解を深める場を、若手研究者・学生を対象に与えている。
ORの計算環境	関 口 恭 毅 木 村 俊 一 (北海道大学) (北海道大学)	12名	6回	理論・応用の両面からORの研究・実施のための計算環境はいかにあるべきかを検討課題として、情報交換と討論を行なってきた。本年度も数理計画問題として定式化される事例とその解法に関する話題が中心であった。
最適化モデルとその周辺	久 志 本 茂 菊 田 健 作 (金沢大学) (富山大学)	18名	5回	最適化モデルに関する研究の広い分野での発表を行なった。その内容はフェジィ理論関連、数理計画法、シミュレーション、その他、また、研究者間の交流を深め、情報交換の場を与えている。
金融と投資のOR	福 川 忠 昭 中 里 宗 敬 (慶応義塾大学) (東京工業大学)	24名	11回	金融・投資に関連するさまざまな問題に対する数理モデルや情報システムについての研究発表会開催、財務理論家や金融工学者・技術者と金融諸機関の実務家との相互交流、情報交換の機会を提供している。
◎情報システムの戦略的活用	辻 新 六 有 馬 昌 宏 (神戸商科大学) (神戸商科大学)	50名	8回	設定した4つのテーマ“中小企業の情報技術活用・情報技術活用の組織的側面・国際的課題・新たな教育環境”についてそれぞれ2回研究会を開催し、発表者による問題提起、参加者間での活発な議論を通じて各テーマに対する理解を深め、研究の成果を挙げた。
◎DSSジェネレータ	権 藤 元 内 海 良 夫 (近畿大学) (YS企画)	8名	12回	「システムづくり3題断」というシンポジウムを開催し、しっかりしたシステムはそのシステムの関係者にとって継続・推進・活用・交流・創造の5つのエネルギーを醸成する働きをもつというまとめを行なった。
情報ネットワークとその活用	杉 野 隆 上 野 哲 郎 (新日鉄情報通信システム) (和光大学)	20名	8回	情報ネットワークとその環境の実態を種々の事例を通して知り、①情報ネットワークが企業、社会に及ぼすインパクト②情報ネットワークを利用したマネジメント③情報ネットワークを支える技術の3点に関して幅広い立場で考える。
システムモデリング手法とその活用	時 永 祥 三 中 村 博 和 (九州大学) (佐賀大学)	19名	8回	8回にわたり研究会を開催し、経済学、経営学、数学、工学およびその他の分野の研究者よりソフトウェア工学、最適化、確率モデル、統計モデルなどの発表が行なわれた。
CIM環境下における生産計画とスケジューリング	黒 田 充 米 田 清 (青山学院大学) (東芝)	20名	10回	日本経営工学会と合同で運営している。ニーズへの合致を基準に広く検討し、特定の方法論に限定していない。人数は平均34名で、企業からの参加者が主体である。
巨大プロジェクトに関するOR	柳 井 浩 鈴 木 久 敏 (慶応義塾大学) (筑波大学)	12名	11回	世界経済の不均衡、環境破壊など人類が直面する諸問題に対処する地球規模の巨大プロジェクトが数多く提案されているが、それらは質量とも未知な要素を含んでいるのでその是非や効果を論ずる土壌ができていない。本部会では、さまざまな視点に立つ数理モデルを作成し、この議論に必要な情報整理の方法の提案を試みる。

データ解析とOR	田中謙輔 (新潟大学) 下村忠行 (新潟中央短大)	24名	3回	教育・研究と企業現場が連携し現実と直面する問題を特にデータ解析に焦点をあて、理論と実践の両面から議論し研究を行ってきた。ORの普及とあわせ、研究者間の交流や情報交換の場を提供している。
交通政策とOR	野末尚次 (鉄道総合技術研究所) 小野耕司 (鉄道総合技術研究所)	13名	8回	交通政策のOR的な面からの検討課題を明らかにするため、交通政策全般のレクチャーを行ない、今後の進め方を定めた。本年度は、内外の交通政策の現状、政策立案のための調査活動を中心に専門家による講演と検討を行なった。
OR基本問題	梅沢豊 (東京大学) 森雅夫 (東京工業大学)	5名	4回	学会は将来へ向けてのORのあり方、学会のあり方等広汎な問題の検討を進めており、そのための基礎研究を行なうことを1つの主要な目的として活動を行なっている。OR発達の歴史的過程、ORの現状、および現在われわれのかかえる諸問題等について取り組むべき課題の掘りおこしを試みる。
* システム・シミュレーション	森戸晋 (早稲田大学) 中野一夫 (構造計画研究所)	23名	3回	離散系シミュレーションの応用と理論の研究に関する情報交換を行なうと同時に最新のソフトウェア情報の収集、利用状況のアンケート調査を行ない、またソフトウェアの海外研究集会におけるセッションオーガナイズに協力するなど国際化にむけて情報交換や協力を行なってきた。
* ◎人間のグローバル経営システム	上田亀之助 (上田イノベーション研究所) 樋爪徹 (山之内製菓)	13名	11回	21世紀も間近となった現在、人間集団・有機統一体・企業・個人等の相互依存関係はますます高まりつつある。そこで人類共通の価値観や人間性をもとしたグローバルな経営の在り方を技術を加えて考えた。
* ◎動的計画法	小田中敏男 (北海道情報大学) 蔵野正美 (千葉大学)	9名	8回	今年度は“ファジィ動的計画法”の理論と応用の研究に重点を置いたが一応の成果を得た。来年のAPOS・Bellman Continuumに備え、各種の分野の発表が行なわれた。また5th Bellman Continuumには当研究部会より4名の参加、発表があった。
* ◎ORソフトウェア	八巻直一 (システム計画研究所) 高森寛 (青山学院大学)	24名	4回	ORに役立つソフトウェア、知的所有権の問題などを研究することを目的とし、今年度はソフトウェアの紹介3件、アルゴリズムについて1件、特許問題について1件の報告がなされた。

5. 普及活動

(1) 定例講演会

開催年月	テーマ	講師	参加人数	開催地区
4年5月	地球温暖化防止のための経済政策	山地憲治	34名	本部
6月	ニューラルネットワークの情報処理	上坂吉則	34名	〃
〃	応用カオス	合原一幸	36名	〃
〃	①2種の異なるサーバをもつ並列待ち行列システムのある割当問題 ②格子経路教え上げにもとづく逐時抜取り検査の解析	小柳淳二	17名	関西
〃	劣化システムの保全政策	河合一	15名	中部
5年2月	間欠障害を伴うデータ伝送システムの最適方策	中川覃夫	17名	中国四国
〃	ニューラルネットの現状と課題	松岡清利	14名	九州

(2) ORセミナー

第1回

「ファジィ多目的計画法の基礎と応用」を平成4年3月4日東京ガス㈱で開催した。参加者は52名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題目(あらまし)	講師
多目的計画法とその応用 —セミナーのねらいと概要—	福川忠昭 (慶応義塾大学)

多目的計画法とその最近の動向
多目的計画法の基礎的な概念といくつかの基本的な解法を示し、ファジィ概念の導入など最近の動向を解説する。

福川 忠昭
(慶応義塾大学)

対話型多目的計画法とその応用
意思決定者にとって最も満足度の高い解を得るために対話型で最適化を図る実用的な方法であり、飼料配合、債券のポートフォリオ、構造物の設計など多くの事例に沿って解説する。

中山 弘隆
(甲南大学)

ファジィ理論の多目的線形計画問題への適用
問題をどのようにしてファジィ数理計画に定式化するか、またその解法や得られた解の妥当性をどのように吟味すべきかを具体的な数値例によって解説する。

乾口 雅弘
(大阪府立大学)

対話型ファジィ多目的計画法とその応用
複数の目的に対し、意思決定者がもつあいまいさを考慮しつつ最も満足度の高い最適解を見つける対話型ファジィ計画法について説明し、環境管理計画問題への適用例をわかりやすく解説する。

矢野 均
(名古屋市立女子短期大学)

第2回

「ORとマーケティング」を平成4年10月28日東京ガス㈱で開催した。参加者は47名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題目(あらまし)	講師
ORとマーケティング —セミナーのねらいと概要—	朝野 照彦 (日本リサーチセンター)

マーケティングの課題・技法とOR マーケティングの活動領域は製・商品化計画、流通・販売、セールスプロモーション、広告、PRにわたるが、各領域で現在どのようなマーケティング課題が問題になっているかを展望する。	福池 泉 (オフィス コギト)	ファジィ判別分析とマーケッティングセグメンテーション 日本のアルコール飲用者を、ファジィ判別分析を用いてセグメンテーションした事例を紹介する。またファジィ多変量解析のマーケティング・リサーチへの適用可能性を述べる。	朝野 照彦 (日本リサーチセンター)
商品開発における魅力工学の提案 企業にとって、今やいかに作るかではなく、何をつくるべきかが問題となっている。工学やOR、社会科学、デザインの分野を再構成して「魅力的な商品・空間を作り出すためのアプローチ」を築くことを提案する。	宇治川 正人 (竹中工務店)		
コンジョイント分析とパソコン・インタビュウイング マーケティングは規範的というよりも顧客オリエンテッドな立場に立つのが特徴といえる。その意味で、ユーザー情報を収集・解析するための情報活動は、すべてのマーケティング活動にとって不可欠である。ここではハイテク・リサーチの一技法を紹介する。	服部 正太 (構造計画研究所)		

(3) OR企業サロン

昨年に引続き「情報化と戦略的事業展開」を統一テーマとし、梅沢豊(東京大学経済学部)をコーディネータとして開催した。今日的な経営の重要課題に関する話題を提供し、あわせて参加者相互の交流を深めることによって、大きな成果を収めた。(参加者延591人)

開催月日	テーマとゲストスピーカー	要 旨	参加者
4. 6. 25	キャンノンにおける共生戦略の展開 ○キャンノン(株) 代表取締役社長 山路 敬三	21世紀に10兆円企業をめざすキャンノンの基本戦略は共生である。すべてを統合したキャンノンの企業活動について語る。	62名
4. 10. 2	経営雑感 一企業の活性化について一 ○アサヒビール(株) 名誉会長 西日本旅客鉄道(株) 名誉会長 村井 勉 情報システム教育について ○文教大学 情報学部教授 真鍋 龍太郎	住友銀行・東洋工業(現マツダ)・アサヒビール・J R西日本各社の経営から、企業の活性化戦略について語る。	51名
於: 札幌			
4. 10. 26	the0123アートコーポレーションのめざすもの ○アートコーポレーション(株) 代表取締役社長 寺田 千代乃	「0123」のブランドで「引越」を事業として確立し数々の新しいサービスを創り出してきた女性経営者が、夢のある経営について語る。	69名
4. 11. 16	スーパーマーケット業態確立のためのシステムズ・アプローチについて ○サミット(株) 代表取締役副社長 荒井 伸也	スーパーマーケットの社会的機能を明確に規定しその状態に向けてシステム開発をすることによりサミット(株)は、経営危機を克服して成長企業に変貌した。その戦略と今日の課題について語る。	71名
4. 11. 26	グローバル企業における経営戦略と情報化について ○横河・ヒューレット・パッカード(株) 代表取締役社長 笹岡 健三	グローバルな活動をしている企業の直面する経営課題と、情報化をふくむ経営戦略について、HP社の事例にもとづいて論説する。	80名
於: 名古屋	S I Sはパプルの徒花だったのか ○東京大学 経済学部教授 梅沢 豊		
5. 1. 22	大和ハウス工業の驚異的成長はいかにして実現されたか ○大和ハウス工業(株) 代表取締役相談役 石橋 信夫	昭和30年、社員わずか18名で会社を設立し、「建築工業化」をテーマにパイプハウスを開発・販売して以来わずか38年で、売上1兆円規模の総合生活産業の雄「大和ハウス工業」を築き上げた創業者が、その卓越した事業経営のコツとロマンを語る。	86名
於: 広島	木と住まいの事業の話 ○山根木材(株) 代表取締役 山根 恒弘		
5. 2. 8	戦略情報がつくるオークネットの経営 ○オークネット(株) 代表取締役社長 藤崎 眞孝	1985年世界初の「中古車TVオークション」システムを開発、独自のマーケティングから自動車流通のみに留まらず、あらゆる事業展開の可能性開拓と時代のニーズへの対応をめざす経営について語る。	72名
於: 大阪	自立型経営から知識の連鎖へ 一最近のアライアンス戦略一 ○富士短期大学 経営学科教授 山下達哉		
5. 2. 25	キリンビールの経営について ○キリンビール(株) 取締役会長 本山 英世	市場・環境条件の激変のなかで、ビール事業低迷に見舞われたキリンビールの再構築に、いかにして成功したか、そのリストラクチャリングの全貌を語る。	100名

6. 刊行物

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol.37 No.3からVol.38No.2まで12号を発行した。特集のテーマは次のとおりであった。

Vol.37No.3「戦略的情報システム(SIS)の展開」、同No.4「大学入試と大学問題」、同No.5「事例研究・研究レポート」、同No.6「高齢化社会」、同No.7「ニューラルネットワーク」、同No.8「パラレル・アルゴリ

ズム」,同No.9「電力」,同10No.「自動車産業」,同No.11「ガス産業」,同No.12「学術コンピュータネットワーク」,Vol.38No.1「防災のモデル分析」,同No.12「交通計画」

(2) 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol.35No.1からNo.4までを発行した。本年度の投稿論文は73編(再投稿15編を含む)で、掲載論文は25編であった。

(3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集

(4) セミナーテキスト

(5) 会員名簿

7. 日本学術会議ならびに他学協会との連携・協力

(1) 日本学術会議関連

日本学術会議経営工学研究連絡委員会の構成学会として、ひきつづき委員をまた同会議経営学研連の構成学会として委員を派遣し、それらの活動に協力した。

6月19日に、経営工学研連ならびに関連4学会の共催による第8回シンポジウムを日本学術会議講堂において開催し、184名の参加をみた。

(2) 経営工学関連学会協議会(FMES)関連

前年度に引き続いて日本経営工学会・日本品質管理学会との協議会に代議員4名を派遣した。

(3) 日本工学会関連

工学系88学協会の連合体である日本工学会に理事1名を派遣するとともにその諸活動に協力し、また同会議事務研究委員会に委員1名を派遣した。特に本年度は事務研委員長として協力した。

(4) 研究ネットワーク連合委員会関連

8. 国際協力

(1) IFORS(International Federation of Operational Research Societies)を通じて、各国のOR学会との交流、協力を図った。

(2) APORS(Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)の会長選出学会としてアジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。

(3) IAOR(International Abstracts in Operations Research)の編集、発行に協力した。

(4) APJOR(Asia-Pacific Journal of Operational Research)の編集、発行、頒布に積極的に協力した。

(5) EJOR(European Journal of Operational Research)の編集、頒布に協力した。

(6) 第3回経済・経営と情報技術に関する国際会議(CEMIT92-CECOIA3)8月31日~9月4日開催に協賛した。

9. 他学協会との交流

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

・講習会「極限的手法における計測・認識とその応用」(計測自動制御学会関西支部)

・'92ロジスティクスソフトウェア全国会議(日本ロジスティクス協会)

・システム制御情報チュートリアル 講座イーブニングスクール「ニューラルネットワークの基礎と計測

・制御への応用」(システム制御情報学会)他

10. 支部活動

各支部ごとに次のとおり活動した

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会1回 運営委員会1回	支部総会1回 運営委員会1回 幹事会1回	支部総会1回 運営委員会3回	支部総会1回 運営委員会2回	支部総会1回 幹事会2回	支部総会1回
研究会	研究会1回	研究会2回	研究会4回	研究会28回	研究会4回	研究会3回
講演会	講演会2回	講演会1回		研究講演会4回 定例講演会1回 記念講演会1回	講演会7回 講習会1回	講演会4回
出版			支部ニュース9回 アブストラクト集1回	支部News letter5回		
その他	OR企業のサロン共催1回		OR企業のサロン共催1回	OR企業のサロン共催1回	OR企業のサロン共催1回	

11. 表彰

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

第21回文献賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

・Linear Complementarity and Oriented Matroid

Journal of the Operations Research Society of Japan vol.35, No.1

福田 公明 (筑波大学)

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

第18回普及賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

イ. 千住 鎮雄 (国際大学)

ロ. 依田 浩 (名古屋工業大学名誉教授)

(3)日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
第17回実施賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

松下電工(株) 代表取締役社長 三好 俊夫

(4)日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞

第13回事例研究奨励賞の選考および第8回事例研究奨励賞ソフトウェア部門の選考を行ない、下記のとおり決定した。

第13回事例研究奨励賞

・競合品予測モデルの一考察

オペレーションズ・リサーチVol.37, No.5

浪平 博人(産能短期大学)

・狭水道における航行環境総合評価のためのエキスパートシステムの研究

オペレーションズ・リサーチVol.37, No.5

山地 哲也(総理府)

・1円入札の損益

オペレーションズ・リサーチVol.37, No.5

吉岡 茂(東京都)

第8回事例研究奨励賞ソフトウェア部門

・多目的計画法による飼料配合支援システム

中山弘隆(甲南大学), 三谷克之輔(広島大学),

吉田 太(松下電工(株))

(5)日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞

第10回学生論文賞の選考を行ない、下記のとおり決定し、授賞を行なった。

・一般化グルーピング問題

伊藤 稔(東海大学・修士論文)

・オプション組み入れポートフォリオの収益率分布評価システムの構築

大久保由紀子(筑波大学・修士論文)

・On Discrete-Time Single-Server Queues with Markov Modulated Batch Bernoulli Input and Finite Capacity

土屋 利明(東京工業大学・修士論文)

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

理事

定数：12人から16人

任期：2年

非常勤

現在：16人

監事

定数：2人

任期：2年

非常勤

現在：2人

理事・監事の役職	氏名	常勤 非常勤 の別	就任		担当職務	職名
			就任年月日	登記年月日		
理事(会長)	伊理 正夫	非常勤	4.4.24	4.6.10	会務の総理	東京大学教授
"(副会長)	齋藤 嘉博	"	3.4.26	3.6.6	"	武蔵野美術大学教授
"(")	高井 英造	"	"	"	"	三菱石油(株)エネルギー調査部長
"(")	権藤 元	"	4.4.24	4.6.10	"	近畿大学教授
"(庶務)	小池 清	"	3.4.26	3.6.6	庶務	日本アイ・ビー・エム(株)公共業務副部長
"(")	田口 東	"	4.4.24	4.6.10	"	中央大学教授
"(会計)	山田 郁夫	"	"	"	会計	三菱電機(株)技術管理部長
"(研究普及)	中野 文平	"	3.4.26	3.6.6	研究普及	東京工業大学助教授
"(")	香田 正人	"	4.4.24	4.6.10	"	日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所
"(編集)	若山 邦紘	"	3.4.26	3.6.6	機関誌編集	法政大学教授
"(")	茨木 俊秀	"	4.4.24	4.6.10	論文誌編集	京都大学教授
"(国際)	腰塚 武志	"	3.4.26	3.6.6	国際	筑波大学教授
"(無任所)	山本 保	"	3.4.26	3.6.6	無任所	東北コンピュータ・サービス(株)社長
"(")	栗原 宏文	"	4.4.24	4.6.10	"	東燃システム研究所所長代理
"(")	藤井 進	"	"	"	"	神戸大学教授
"(")	伏見 正則	"	"	"	"	東京大学教授
監事	三平 武男	"	3.4.26	3.6.6	民法59条	川鉄システム開発(株)常務取締役
"	高橋 磐郎	"	4.4.24	4.6.10	"	日本大学教授

2. 職員に関する事項

区分	専任者		備考
	有給者		
	人数	左の人数の基本給 (年度末月額)	
事務職員	4人	882,100(円)	
計	4人	882,100(円)	

3. 会議に関する事項 (1)通常総会

開催年月日	議事事項	結果
4.4.24	1.平成3年度事業報告の件 2.平成3年度収支計算報告および監査報告の件 3.平成4年度事業計画の件 4.平成4年度予算の件 5.平成4年度・5年度役員選任の件 6.平成4年度・5年度評議員選任の件 7.名誉会員推薦の件 学会賞の発表と表彰・新フェローの紹介	承認 " " " " " " "

(2)理事会

4.5.21	1.平成3年度評議員会議事録の件 2.平成3年度第7回理事会議事録の件 3.平成4年度通常総会議事録の件 4.入退会承認の件 5.各支部総会報告の件 6.平成4年度委員会委員・幹事委嘱の件 7.各委員会報告(含、今年度の運営方針)	承認 " " " " " "
4.7.20	1.第1回理事会議事録の件 2.入退会承認の件 3.会員増強の件 4.平成4年度春季支部長会議開催報告・議事録の件 5.第1/四半期収支計算報告の件 6.平成4年度春季研究発表会・第27回シンポジウム終了報告の件 7.研連シンポジウム終了・平成4年度秋季研究発表会中間報告の件 8.平成5年度春季研究発表会の件 9.丸の内OR研究会の発足について	承認 " " " " 了承 " " "
4.9.28	1.第2回理事会議事録の件 2.入退会承認の件 3.第10回学生論文賞推薦の件 4.上半期収支概算報告の件 5.平成4年度春季研究発表会収支決算報告の件 6.第28回シンポジウム終了報告の件 7.平成4年度秋季研究発表会終了報告の件	承認 " " " " 了承 "

	8.経営工学研連シンポジウム終了・収支決算報告の件 9.平成4年度第2回セミナー収支予算の件	承認 "
4.11.19	1.第3回理事会議事録の件 2.入退会承認の件 3.名誉会員推薦の件 4.事務所賃借料改訂の件 5.IFORS'93視察団派遣の件 6.平成4年度秋季研究発表会収支決算の件 7.平成4年度第2回セミナー終了報告および収支決算の件 8.平成4年度第3回定例講演会終了報告および収支決算の件	承認 " " " 了承 承認 " "
5.1.21	1.第4回理事会議事録の件 2.入退会承認の件 3.第3/四半期収支報告の件 4.研究部会の新設ならびに継続の件 5.RAMPシンポジウム収支決算報告の件 6.平成5年度秋季研究発表会・シンポジウム日程等変更の件 7.平成5年度事業計画の件	承認 " " " " 了承 承認
5.3.31	1.第5回理事会議事録の件 2.入退会承認の件 3.平成3・4年度会費未納者(除名対象者)の件 4.新フェロー推薦の件 5.平成5・6年度役員候補者の件 6.学会賞授賞候補推薦の件 7.表彰規程・細則改訂の件 8.平成4年度研究部会・グループ終了/経過報告の件 9.平成5年度セミナー・本部定例講演会開催の件 10.国際会議の件 11.春季支部長会議開催報告の件 12.平成4年度事業報告(案)および収支見込の件 13.平成5年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 14.RAMP特別会計報告の件	承認 " " " " 了承 承認 了承 " 承認 " "
5.4.9	1.第6回理事会議事録の件 2.平成4年度事業報告の件 3.平成4年度収支計算報告および監査報告の件 4.平成5年度事業計画の件 5.平成5年度収支予算の件 6.平成5年度・6年度役員候補者選任の件 7.委員会等からの報告	承認 " " " " " 了承

(3)評議員会

開催年月日	議事事項	結果
5.4.9	1.平成4年度事業報告の件 2.平成4年度収支計算報告および監査報告の件 3.平成5年度事業計画の件 4.平成5年度収支予算の件 5.平成5年度・6年度役員候補者選任の件 6.名誉会員推薦の件 7.その他	承認 " " " " " "

(4)支部長会議

支部長会議は5月（仙台）と9月（東京）の2回開催した。

(5)委員会・幹事会

・常設委員会

- OR誌編集委員会 13回 国際委員会 4回
- 研究普及委員会 7回 表彰委員会 5回
- 普及小委員会 3回 IAOR委員会 4回
- JORSJ編集委員会 3回

・その他の委員会・幹事会

- フェロー会議 1回 庶務幹事会 7回
- 研究部会主査会議 1回 企業サロン企画委員会 3回
- OA化委員会 3回 財政問題検討委員会 3回
- 会員増強委員会 6回 副会長会議 1回
- OR基本課題検討委員会 4回 学会運営検討委員会 4回
- 名簿刊行委員会 2回 丸の内OR企画委員会 4回

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

該当なし

7. 主務官庁の指示に関する事項

該当なし

8. 会員状況

(1)入退会内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員		合計
				A種	B種	
平成4年2月末日	9	2,579	182	169(202)	48(48)	2,987
入会		127	116	9(9)	5(6)	257
純増減	2	48	44	△12(14)	2(3)	84
平成5年2月末日	11	2,627	226	157(188)	50(51)	3,071

()は口数

(2)地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A種	B種
本部	9	1,586	155	108(135)	28(29)
北海道		79	2	4(4)	1(1)
東北		85	4	6(7)	
中部	1	231	21	12(12)	
関西	1	354	38	16(17)	9(9)
中国・四国		151	3	5(7)	4(4)
九州		141	3	6(6)	8(8)
合計	11	2,627	226	157(188)	50(51)

()は口数

(第2号議案)

平成4年度収支計算書

収支計算書総括表

(平成4年3月1日から平成5年2月28日まで)

(単位：円)

1) 収入の部

科目	合計	一般会計	特別会計	
			数理計画法会 研究	I FORS会議
基本財産運用収入	240,657	240,657	0	0
入会金収入	222,000	222,000	0	0
会費収入	55,876,700	55,876,700	0	0
事業収入	18,057,292	18,047,292	10,000	0
参加費収入	2,715,000	0	2,715,000	0
寄付金収入	0	0	0	0
雑収入	9,493,836	9,169,241	323,477	1,118
当期収入合計	86,605,485	83,555,890	3,048,477	1,118
前期繰越収支差額	23,149,114	17,866,565	5,024,151	258,398

収 入 合 計	109,754,599	101,422,455	8,072,628	259,516
2) 支出の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	I F O R S 会 議
管 理 費	27,851,614	27,847,700	3,914	0
事 業 費	58,444,757	55,042,989	3,401,768	0
当 期 支 出 合 計	86,296,371	82,890,689	3,405,682	0
当 期 収 支 差 額	309,114	665,201	△ 357,205	1,118
次 期 繰 越 収 支 差 額	23,458,228	18,531,766	4,666,946	259,516
支 出 合 計	109,754,599	101,422,455	8,072,628	259,516

収 支 計 算 書

(平成4年3月1日から平成5年2月28日まで)

1. 一般会計

(単位：円)

1) 収入の部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異
大 科 目	中 科 目	小 科 目			
基本財産運用収入	基本財産利息収入		200,000	240,657	40,657
入会金収入	正会員入会金収入		160,000	152,400	△ 7,600
	学生会員入会金収入		43,000	69,600	26,600
会費収入	正会員会費収入		30,300,000	31,754,100	1,454,100
	学生会員会費収入		1,210,000	1,485,600	275,600
	賛助会員会費収入		22,900,000	22,637,000	△ 263,000
事業収入	会誌頒布収入		8,400,000	8,704,084	304,084
	研究発表会収入		3,820,000	5,059,908	1,239,908
	講演会収入		560,000	537,000	△ 23,000
	講習会収入		2,440,000	2,073,000	△ 367,000
	資料等頒布収入		100,000	226,300	126,300
	I A O R 収入		540,000	549,000	9,000
	E J O R 収入		750,000	750,000	0
	A P J O R 収入		150,000	148,000	△ 2,000
	受託研究収入		0	0	0
雑収入	広告収入		5,000,000	4,383,600	△ 616,400
	受取利息		2,000,000	2,931,841	931,841
	名簿収入		1,300,000	1,521,500	221,500
	雑収入		500,000	332,300	△ 167,700
	退職給与引当金取崩収入		0	0	0
	表彰事業引当金取崩収入		400,000	0	△ 400,000

	国際協力引当金取崩収入	800,000	0	△ 800,000
	OA化引当金取崩収入	300,000	0	△ 300,000
	名簿作成引当金取崩収入	500,000	0	△ 500,000
	別途引当金取崩収入	2,347,000	0	△2,347,000
当期収入合計		84,720,000	83,555,890	△1,164,110
前期繰越収支差額		17,866,565	17,866,565	0
収入合計		102,586,565	101,422,455	△1,164,110

2) 支出の部

勘定科目			予算額	決算額	差異
大科目	中科目	小科目			
管 理 費	家賃	賃費	3,500,000	3,378,000	122,000
	共益	費	1,250,000	1,245,000	5,000
	事務用品	費	500,000	162,502	337,498
	会議	費	900,000	849,037	50,963
	旅費	費	2,300,000	1,954,500	345,500
	通信	費	1,600,000	2,314,443	△ 714,443
	印刷	費	500,000	591,095	△ 91,095
	消耗品	費	500,000	345,089	154,911
	OA化準備	費	300,000	51,500	248,500
	リース	料	200,000	242,544	△ 42,544
	修繕	費	150,000	187,202	△ 37,202
	給料	当	10,710,000	10,363,063	346,937
	福利厚生	費	2,200,000	2,327,473	△ 127,473
	臨時雇賃	金	1,300,000	1,219,254	80,746
	退職職	金	0	182,000	△ 182,000
	保険	料	100,000	109,280	△ 9,280
	負担	金	90,000	84,700	5,300
	支払手数	料	150,000	167,539	△ 17,539
	租税公課		60,000	54,800	5,200
	事 業 費	退職給与引当金繰入		200,000	200,000
敷金引当金繰入			0	200,000	△ 200,000
雑損		費	250,000	446,279	△ 196,279
損		金	600,000	1,172,400	△ 572,400
研究発表会					
		開催費	2,500,000	3,423,104	△ 923,104
		印刷費	1,320,000	1,559,442	△ 239,442
印刷製本費					
		機関誌	14,800,000	13,995,331	804,669
		論文誌	4,300,000	3,040,056	1,259,944
	報文集	100,000	0	100,000	
	印刷費	50,000	154,334	△ 104,334	
国際協力費					
	IFORS会費	500,000	437,158	62,842	
	IAOR購入費	400,000	389,940	10,060	

予備費	研究活動費	EJOR購入費	750,000	760,246	△ 10,246
		APJOR購入費	120,000	119,259	741
		APORS関係費	500,000	197,951	302,049
		講演会開催費	660,000	442,757	217,243
		講習会開催費	1,200,000	673,167	526,833
		OR企業サロン	2,500,000	2,237,694	262,306
		研究部会費	900,000	850,000	50,000
		支部費	3,100,000	3,059,000	41,000
		表彰事業費	400,000	439,028	△ 39,028
		会議費	550,000	496,309	53,691
		旅交通費	1,300,000	1,120,270	179,730
		通信運搬費	4,700,000	4,743,018	△ 43,018
		諸謝金	1,300,000	1,051,000	249,000
		給料手当	10,710,000	10,363,063	346,937
		編集校正費	2,000,000	1,960,000	40,000
		消耗品費	1,200,000	1,072,195	127,805
		FMES・研連関係費	150,000	154,510	△ 4,510
		記念事業引当金繰入	0	0	0
		国際協力引当金繰入	0	0	0
		表彰事業引当金繰入	0	740,000	△ 740,000
		O A化引当金繰入	0	0	0
		OR事典・事例集出版引当金繰入	0	0	0
		別途引当金繰入	0	393,458	△ 393,458
雑費	50,000	31,724	18,276		
名簿作成費	1,300,000	1,138,975	161,025		
当期支出合計			84,720,000	82,890,689	1,829,311
当期収支差額			0	665,201	△ 665,201
次期繰越収支差額			17,866,565	18,531,766	
支出合計			102,586,565	101,422,455	1,164,110

2. 特別会計

(1) 数理計画法研究会

1) 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異
当期収入合計	3,250,000	3,048,477	△ 201,523
前期繰越差額	5,024,151	5,024,151	0
収入合計	8,274,151	8,072,628	△ 201,523

2) 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異
当期支出合計	4,050,000	3,405,682	644,318

当期収支差額	△ 800,000	△ 357,205	△ 442,795
次期繰越収支差額	4,224,151	4,666,946	△ 442,795
支出合計	8,274,151	8,072,628	201,523

(2) I F O R S 会議 (IFORS'90+CECOIA 2 国際会議派遣)

1) 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異
当期収入合計	0	1,118	1,118
前期繰越収支差額	258,398	258,398	0
収入合計	258,398	259,516	1,118

2) 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異
当期支出合計	258,398	0	258,398
当期収支差額	0	1,118	△ 1,118
次期繰越収支差額	0	259,516	△ 259,516
支出合計	258,398	259,516	△ 1,118

貸借対照表総括表

(平成5年2月28日)

(単位:円)

1 資産の部

科目	合計	一般会計	特別会計	
			数理計画法研究会	I F O R S 会議
流動資産合計	95,619,989	90,231,031	4,666,946	722,012
固定資産合計	1,242,000	1,242,000	0	0
資産合計	96,861,989	91,473,031	4,666,946	722,012

2 負債の部

科目	合計	一般会計	特別会計	
			数理計画法研究会	I F O R S 会議
流動負債合計	34,200,011	34,200,011	0	0
固定負債合計	34,463,266	33,741,254	0	722,012
負債合計	68,663,277	67,941,265	0	722,012

3 正味財産の部

科目	合計	一般会計	特別会計	
			数理計画法研究会	I F O R S 会議
基本金	5,000,000	5,000,000	0	0
剰余金	23,198,712	18,531,766	4,666,946	0

正味財産合計	28,198,712	23,531,766	4,666,946	0
負債および正味財産合計	96,861,989	91,473,031	4,666,946	722,012

貸借対照表

(平成5年2月28日)

1. 一般会計

(1)資産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動資産			
	現金預金	80,489,359	
	有価証券	8,000,000	
	未収金	1,646,060	
	前払金	95,612	
流動資産合計			90,231,031
その他の固定資産	敷金	1,242,000	
その他の固定資産合計			1,242,000
資産合計			91,473,031

(2)負債の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動負債			
	預り金	545,376	
	未払金	0	
	前受金	33,654,635	
流動負債合計			34,200,011
固定負債			
	退職給与引当金	2,802,508	
	敷金引当金	3,421,640	
	名簿引当金	500,000	
	国際協力引当金	5,817,106	
	記念事業引当金	3,200,000	
	表彰事業引当金	3,000,000	
	OA化引当金	2,500,000	
	OR事典等引当金	500,000	
	別途引当金	12,000,000	
固定負債合計			33,741,254
負債合計			67,941,265

(3)正味財産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
基本金	基本金		5,000,000
剰余金	次期繰越収支差額 (うち当期増減額)	18,531,766 (665,201)	
剰余金合計			18,531,766
正味財産合計			23,531,766
負債及び正味財産合計			91,473,031

2. 特別会計(数理計画研究会)

(1)資産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動資産			
	現金預金	4,090,271	
	仮払金	576,675	
流動資産合計			4,666,946
有形固定資産		0	
有形固定資産合計			0
資産合計			4,666,946

(2)負債の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動負債		0	
流動負債合計			0
固定負債		0	
固定負債合計			0
負債合計			0

(3)正味財産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
基本金	基本金		0
剰余金	次期繰越収支差額 (うち当期増減額)	4,666,946 (△357,205)	

剰余金合計		4,666,946
正味財産合計		4,666,946
負債及び正味財産合計		4,666,946

3. 特別会計（IFORS会議）

(1)資産の部

勘定科目		金額
大科目	中科目	
流動資産	現金預金	722,012
流動資産合計		722,012
資産合計		722,012

(2)負債の部

勘定科目		金額
大科目	中科目	
固定負債	IFORS特別会計積立金	722,012
固定負債合計		722,012
負債合計		722,012

（第3号議案）

平成5年度事業計画

現在の世界の社会・経済情勢より考えて、平成5年度の主要活動方針は、「不況のブレイクスルーのためのOR」とする。特に本年度は、ORを社会により認知していただくよう各位にお願いする次第であります。学会としても昨年度に引き続き各分野交流の促進、他学協会との連携の強化を図るなど、ORの普及や実践の活動を従来以上に推進することを基本とする。

平成5年度における計画の概要は次のとおりである。

1. 研究発表会

研究発表会を春秋2回開催する。

(1) 春季研究発表会

期日：3月22日、23日（見学会は24日）

場所：京都大学

特別テーマ：流れのOR

(2) 秋季研究発表会

期日：10月23日、24日（見学会は25日）

場所：筑波大学

特別テーマ：未定

2. シンポジウム

シンポジウムを2回開催する。

(1) 第29回シンポジウム

期日：3月24日

場所：京都工芸繊維大学

テーマ：顧客満足と組織革新に挑む製造業の情報技術活用

(2) 第30回シンポジウム（未定）

3. 特設研究部会（数理計画法研究会）

（主査：今野 浩（東京工業大学） 幹事：古林 隆（法政大学）、茨木俊秀（京都大学）、森戸 晋（早稲田大学） 藤重 悟（筑波大学）、鈴木久敏（筑波大学）、山本芳嗣（筑波大学）、水野眞治（統計数理研究所） メンバー：26名）

4. 研究部会・研究グループ

(1) 研究部会

次の19研究部会を設置する。

ア. 常設（2研究部会）

「待ち行列」 主査：紀 一誠（日本電気㈱）
「OR/MSとシステム・マネジメント」

主査：松田 武彦（産能大学）

イ. 継続（10研究部会）

「ORの計算環境」 主査：関口 恭毅（北海道大学）
「最適化モデルとその周辺」

主査：久志本 茂（金沢大学）

「金融と投資のOR」

主査：福川 忠昭（慶応義塾大学）

「情報ネットワークとその活用」

主査：杉野 隆（新日鉄情報通信システム㈱）

「システムモデリング手法とその活用」

主査：時永 祥三（九州大学）

「CIM環境下における生産計画とスケジューリング」 主査：黒田 充（青山学院大学）

「交通政策とOR」

主査：野末 尚次（財団法人鉄道総合技術研究所）

「巨大プロジェクトに関するOR」

主査：柳井 浩（慶応義塾大学）

「データ解析とOR」 主査：田中 謙輔（新潟大学）

「OR基本問題」 主査：梅沢 豊（東京大学）

ウ. 新設（6研究部会）

「動的計画法」 主査：小田中敏男（北海道情報大学）

「システムと最適化」

主査：一森 哲男（大阪工業大学）

「ORソフトウェア」

主査：八巻 直一(㈱システム計画研究所)

「組合せ最適化」 主査：松井 知己(東京大学)

「合意形成・政策」

主査：荻野 正浩(お茶の水外語学院)

「マーケティング・サイエンス」

主査：木島 正明(筑波大学)

エ. 年度途中から1つを限度として研究部会の発足を認める。

(2) 研究グループ

次の3研究グループを設置する。

ア. 継続 (1研究グループ)

「システム・シミュレーション」

主査：森戸 晋(早稲田大学)

イ. 新設 (2研究グループ)

「日本の経営」

主査：上田亀之助(上田イノベーション研究所)

「OR広報」 主査：森村 英典(日本女子大学)

5. 普及活動、会員増強活動

- (1) 研究意欲の増進，最新知識情報の吸収を意図し講演会開催の積極化を図る。(本部3回，支部6回)
- (2) 学会の役割を内外にアピールするという広報活動の一環としての位置づけに配慮しセミナー(講習会)を開催する。(2回)
- (3) 賛助会員の増強を図るとともに支部活動の活性化に寄与するため，OR企業サロンを開催する(本部および地方支部で開催)
- (4) 会員増強活動の推進
- (5) その他学会活動の広報

6. 刊行物

次の刊行物を発行する。

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」(12号)
- (2) 論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(4号)
- (3) 研究発表会アブストラクト集 (2回)
- (4) シンポジウム予稿集 (2回)・セミナーテキスト (2回)

7. 日本学術会議および他学協会との連携・協力

- (1) 日本学術会議，第16期登録学術研究団体となるための登録申請を行なう。
- (2) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会および同会議経営学研究連絡委員会の活動に協力する。
- (3) 経営工学関連学協会協議会(FMES)に代議員を派

遣し，その活動に参画する。

- (4) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会ならびに(㈱)日本オペレーションズ・リサーチ学会，(㈱)日本品質管理学会，(㈱)日本経営工学会，および日本開発工学会が共催する第8回シンポジウムに参画する。

期日：6月18日(金)

場所：日本学術会議講堂

テーマ：教育革新と経営工学

—21世紀の人材育成へ向けて—

- (5) (㈱)日本工学会に理事を派遣するとともに同学会に設置されている事務研究委員会に事務局長を委員として派遣し，その運営に協力する。
- (6) (㈱)日本工学会の活動に協力し，その他関連学協会との交流を積極的に進める。
- (7) 研究ネットワーク連合委員会に理事を委員として派遣し，同委員会の運営に協力する。

8. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として，官公庁，財団等の公的機関からの委託研究を積極的に受託するように努める。

9. 国際協力・交流

- (1) IFORS(International Federation of Operational Research Societies)を通じて，各国のOR学会との交流，協力を図る。
- (2) APORS(Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)の会長選出学会であり，かつ主催学会として，第3回APORS国際会議(1994)の日本開催の準備をするとともに，アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会間の情報交換に積極的に協力する。
- (3) IAOR(International Abstracts in Operations Research)の編集，発行に協力し，日本の文献抄録を送付するとともに，IAORの国内頒布に協力する。
- (4) APJOR(Asia-Pacific Journal of Operational Research)の編集，発行，頒布に積極的に協力する。
- (5) EJOR(European Journal of Operational Research)の編集頒布に積極的に協力をする。
- (6) 海外からのOR関係来訪者に応接する。
- (7) 第13回IFORS大会(IFORS93, Lisbon)へ視察団を派遣する。

10. 支部活動

各支部において，研究会，講演会，見学会等を企画し，

実施する。

なう。

11. 表彰

12. その他

文献賞，実施賞，普及賞，事例研究奨励賞（ソフトウェア部門賞を含む）および学生論文賞の選考・表彰を行

財政基盤の安定化に努めるとともに，事務局のOA化に配意する。

（第4号議案）

平成5年度収支予算書

収支予算書総括表

（平成5年3月1日から平成6年2月28日まで）

（単位：円）

1 収入の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	I F O R S 会 議
基本財産運用収入	220,000	220,000	0	0
入会金収入	206,000	206,000	0	0
会費収入	50,902,000	50,902,000	0	0
事業収入	22,070,000	19,520,000	2,550,000	0
雑収入	10,085,000	9,885,000	200,000	0
当期収入合計	83,483,000	80,733,000	2,750,000	0
前期繰越収支差額	23,458,224	18,531,766	4,666,942	259,516
収入合計	106,941,224	99,264,766	7,416,942	259,516
2 支出の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	I F O R S 会 議
管理費	26,120,000	26,120,000	0	0
事業費	58,572,516	54,613,000	3,700,000	259,516
当期支出合計	84,692,516	80,733,000	3,700,000	259,516
当期収支差額	△ 950,000	0	△ 950,000	0
次期繰越収支差額	22,248,708	18,531,766	3,716,942	0
支出合計	106,941,224	99,264,766	7,416,942	259,516

収支予算書

（平成5年3月1日から平成6年2月28日まで）

1. 一般会計

（単位：円）

1) 収入の部					
勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減
大 科 目	中 科 目	小 科 目			
基本財産運用収入 入会金収入	基本財産利息収入 正会員入会金収入 学生会員入会金収入		220,000	200,000	20,000
			150,000	160,000	△ 10,000
			56,000	43,000	13,000

会費収入	正会員会費収入	30,624,000	30,300,000	324,000
	学生会員会費収入	1,535,000	1,210,000	325,000
	賛助会員会費収入	18,743,000	22,900,000	△4,157,000
事業収入	会誌頒布収入	8,500,000	8,400,000	100,000
	研究発表会収入	4,150,000	3,820,000	330,000
	講演会収入	685,000	560,000	125,000
	講習会収入	2,440,000	2,440,000	0
	資料等頒布収入	200,000	100,000	100,000
	I A O R 収入	585,000	540,000	45,000
	E J O R 収入	810,000	750,000	60,000
	A P J O R 収入	150,000	150,000	0
	受託研究収入	2,000,000	0	2,000,000
雑収入	広告収入	3,800,000	5,000,000	△1,200,000
	受取利息	2,200,000	2,000,000	200,000
	名簿収入	150,000	1,300,000	△1,150,000
	雑収入	300,000	500,000	△200,000
	退職給与引当金取崩収入	0	0	0
	表彰事業引当金取崩収入	700,000	400,000	300,000
	国際協力引当金取崩収入	1,050,000	800,000	250,000
	O A 化引当金取崩収入	200,000	300,000	△100,000
	名簿作成引当金取崩収入	0	500,000	△500,000
	別途引当金取崩収入	1,485,000	2,347,000	△862,000
当期収入合計		80,733,000	84,720,000	△3,987,000
前期繰越収支差額		18,531,766	17,866,565	665,201
収入合計		99,264,766	102,586,565	△3,321,799

2) 支出の部

勘定科目			予算額	前年度予算額	増減
大科目	中科目	小科目			
管理費	家賃	賃	3,810,000	3,500,000	△310,000
	共益	費	1,250,000	1,250,000	0
	事務用品	費	100,000	500,000	400,000
	会議	費	800,000	900,000	100,000
	旅費	交通費	2,000,000	2,300,000	300,000
	通信	費	1,500,000	1,600,000	100,000
	印刷	費	500,000	500,000	0
	消耗品	費	400,000	500,000	100,000
	O A 化	準備費	100,000	300,000	200,000
	リ	ス	250,000	200,000	△50,000
	修繕	費	150,000	150,000	0
	給料	手当	10,400,000	10,710,000	310,000
	福利	厚生費	2,400,000	2,200,000	△200,000
	臨時	雇賃金	1,200,000	1,300,000	100,000

事業費	退 職 金	0	0	0	
	保 險 料	110,000	100,000	△ 10,000	
	負 担 金	90,000	90,000	0	
	支 払 手 数 料	150,000	150,000	0	
	租 税 公 課	60,000	60,000	0	
	退 職 給 与 引 当 金 繰 入	0	200,000	200,000	
	雑 費	250,000	250,000	0	
	損 金	600,000	600,000	0	
	研 究 発 表 会				
		開 催 費	2,700,000	2,500,000	△ 200,000
		印 刷 費	1,450,000	1,320,000	△ 130,000
	印 刷 製 本 費				
		機 関 誌	13,800,000	14,800,000	1,000,000
		論 文 誌	3,000,000	4,300,000	1,300,000
		報 文 集	0	100,000	100,000
		印 刷 費	50,000	50,000	0
	国 際 協 力 費				
		I F O R S 会 費	450,000	500,000	50,000
		I A O R 購 入 費	400,000	400,000	0
		E J O R 購 入 費	821,000	750,000	△ 71,000
		A P J O R 購 入 費	137,000	120,000	△ 17,000
		A P O R S 関 係 費	600,000	500,000	△ 100,000
	研 究 活 動 費				
		講 演 会 開 催 費	700,000	660,000	△ 40,000
		講 習 会 開 催 費	800,000	1,200,000	400,000
		O R 企 業 サ ロ ン	2,400,000	2,500,000	100,000
		研 究 部 会 費	855,000	900,000	45,000
	支 部 費	3,100,000	3,100,000	0	
	表 彰 事 業 費	700,000	400,000	△ 300,000	
	会 議 費	500,000	550,000	50,000	
	旅 費 交 通 費	1,100,000	1,300,000	200,000	
	通 信 運 搬 費	4,700,000	4,700,000	0	
	諸 謝 金	1,100,000	1,300,000	200,000	
	給 料 手 当	10,400,000	10,710,000	310,000	
	編 集 校 正 費	2,000,000	2,000,000	0	
	消 耗 品 費	1,000,000	1,200,000	200,000	
	受 託 研 究 費	1,700,000	0	△ 1,700,000	
	F M E S ・ 研 連 関 係 費	100,000	150,000	50,000	
	記 念 事 業 引 当 金 繰 入	0	0	0	
	雑 費	50,000	50,000	0	
	名 簿 作 成 費	0	1,300,000	1,300,000	
予 備 費					
	当 期 支 出 合 計	80,733,000	84,720,000	3,987,000	
	当 期 収 支 差 額	0	0	0	
次 期 繰 越 収 支 差 額		18,531,766	17,866,565	△ 665,201	
	支 出 合 計	99,264,766	102,586,565	3,321,799	

2. 特別会計

(1) 数理計画法研究会

1) 収入の部			
勘定科目	予算額	前年度予算額	増減
当期収入合計	2,750,000	3,250,000	△ 500,000
前期繰越収支差額	4,666,942	5,024,151	△ 357,209
収入合計	7,416,942	8,274,151	△ 857,209
2) 支出の部			
勘定科目	予算額	前年度予算額	増減
当期支出合計	3,700,000	4,050,000	350,000
当期収支差額	△ 950,000	△ 800,000	△ 150,000
次期繰越収支差額	3,716,942	4,224,151	507,209
支出合計	7,416,942	8,274,151	857,209

(2) IFORS会議

1) 収入の部			
勘定科目	予算額	前年度予算額	増減
当期収入合計	0	0	0
前期繰越収支差額	259,516	258,398	1,118
収入合計	259,516	258,398	1,118
2) 支出の部			
勘定科目	予算額	前年度予算額	増減
当期支出合計	259,516	258,398	△ 1,118
当期収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0
支出合計	259,516	258,398	△ 1,118

(第5号議案)

平成5・6年度年度役員候補者名簿

(第6号議案)

名誉会員

会務役職	定数	候補者	備考(非改選役員)
会長	1 (0)		伊理正夫
副会長	3 (2)	忍田和良	権藤元
"		柳井浩	
庶務	2 (1)	紀一誠	田口東
国際	1 (1)	大山達雄	
研究普及	2 (1)	森戸晋夫	香田正人
編集	2 (1)	森雅夫	茨木俊秀
会計	1 (0)		山田郁夫
無任所	4 (1)	澤木勝茂	栗原宏文
"			藤井進則
"			伏見正則
監事	2 (1)	伊藤忠雄	高橋馨郎

被推薦者

岡久雄

() 内は平成5年度改選数